

「未来の礎を築く　教育のまち　平塚」

須藤　量久　議員

小・中一貫教育

問　「平塚市未来の礎を築く学校づくり推進委員会」での検討内容を伺う。

教育長　「平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針」を踏まえ、検討対象校や優先検討校、適正規模・適正配置に向けた、具体的な取り組みについて検討する。

問　現在及び今後の児童・生徒数の減少を見据え、さまざまなメリットを持つ小・中一貫教育の更なる推進や、小・中一貫校の設置についても検討すべきと考えるが、市の見解を伺う。

教育長　小・中一貫教育の推進や小・中一貫校の設置は、子どもたちの教育環境や教育内容を充実させるための選択肢の一つであり、今後、附属機関の中で議論していく。

英語教育

問　授業以外の場で英語に触れる機会を増やすことが重要だが、実践的なコミュニケーション能力の育成に向けた、新たな取り組みや場の設定を伺う。

教育長　実践的な英語力の育成には、英語で対話する体験が重要であると考え、ＡＥＴと積極的に英語で話すことができるイングリッシュデイやイングリッシュイベントを実施している。また、新たな取り組みとして、休み時間や給食時間など、授業以外での交流について、ＡＥＴの効果的な活用を検討していく。

問　早くから英語の発音や、リズムに慣れ親しむことも重要である。英語教育における幼・保・小・中の連携は必要と考えるが、見解を伺う。

教育長　ＡＥＴを公立幼稚園やこども園、小学校１・２年生へも計画的に派遣し、早期から英語に親しむ機会を設けている。今後も幼児や児童・生徒の英語に対する興味や関心を高めていきたい。

ふるさと教育

問　生まれ育ったふるさとへの誇りと愛着を育むことは、とても大切である。シビックプライドが高いほど、地域活動やボランティアなどの行動につながりやすい。更なるふるさと教育の推進を図るべきと考えるが、見解を伺う。

教育長　地域とともにある学校づくりを目指し、地域の人や自然と触れ合う中で、一人一人が思いやりのある、心豊かな人として生きていく力を身につけるよう取り組んでいる。体験活動を通した触れ合い教育や、総合的な学習の時間は、多くの地域の協力で成り立っており、これからもふるさとへの誇りや、愛着が育まれるよう、学校の取り組みを支援していく。

食農教育

問　平成20年度以降、ＪＡ湘南農業協同組合から補助教材「農業とわたしたちのくらし」の寄付が続けられているが、活用状況について伺う。

教育長　本教材を活用することで、教科書に掲載されている内容を、本市の具体的な事例と比較検討することができ、学習内容をより自分たちの生活に直結する身近な課題として捉え、地元の農業への理解を深めることにつながっている。ＪＡも含め、地元農家と連携した取り組みの好事例は、食教育推進担当者会にて情報共有し、食農教育の推進に取り組んでいく。

▼このほかの質問　外出支援による交流の促進　平塚の魅力発信

１面掲載写真を募集しています

平塚市内に在住又は在勤･在学の方を対象に、市内を撮影した四季折々の風景など、本市の魅力あふれる写真を募集しています。

今回は、第２４４号（令和９年２月５日発行予定）に掲載する写真を募集します。

詳しい応募方法などは、市議会ホームページをご覧いただくか、議会局までお問い合わせください。

（議会局　☎21-8791）

清風クラブ　所属議員



佐藤 貴子 議長



野崎 審也 議員



坂間 正昭 議員



黒部 栄三 議員



片倉 章博 議員

予算決算常任委員会各分科会（決算）の審査概要

令和７年度決算の認定に関する議案について、９月17日から18日にかけて予算決算常任委員会の各分科会で審査し、議案４案件は全て認定すべきものと決定しました。主な質疑を紹介します。

総務経済

○認第１号　決算の認定について〔令和7年度平塚市一般会計・特別会計決算〕

問　防災対策費の災害対策本部対応力強化事業について、モバイル端末の活用による災害対策の強化として、建物被害の認定調査を効率化とあるが、令和７年度のタブレット端末の導入状況と台数を伺う。

答　災害発生時の建物被害の認定調査において、タブレット端末を用いた現地調査を行うことを想定しており、端末の賃貸借契約を締結した。これまで使用してきた13台に新たに２台を追加した。

問　農業振興費の担い手総合対策事業について、実証実験の内容及び委託費の金額を伺う。

答　実証実験はライスセンターが管理する４か所の圃場で実施し、畦畔（けいはん）を除去して田んぼを統合し、農地の区画拡大を図った。本実験では、耕うんから刈り取りまでを行った。委託費は60万７千円である。

都市建設

○認第１号　決算の認定について〔令和7年度平塚市一般会計・特別会計決算〕

問　橋りょう維持費の橋りょう長寿命化修繕事業について、平塚大橋の長寿命化修繕の内容と、工事の進捗率について伺う。

答　平塚市橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、橋げたの一部の塗装の劣化した塗膜を除去し、新たに塗り直す工事を行っている。平塚大橋は橋長が長く、複数年に渡る工事となるため、現在の進捗率は約40％である。

問　河川総務費の湘南ひらつかビーチパーク利用推進事業について、イベント開催時以外でも、多くの市民にビーチパークを利用してもらうための工夫を伺う。

答　休日など来園者が多い時は救命士を配置し、安心・安全につながる取り組みを行っている。また、ひらつかシーテラスがオープンし、ビーチパークまでの園路を整備したことにより、海岸エリアの回遊性を高めることができた。

教育民生

○認第１号　決算の認定について〔令和7年度平塚市一般会計・特別会計決算〕

問　教育指導費の日本語指導協力者派遣事業について、令和７年度の日本語指導協力者の配置人数と対応言語数、また未対応言語の課題解決への取り組みを伺う。

答　16人の指導協力者を配置し、９言語に対応した。指導協力者の確保が困難だったスリランカやネパールなどの５言語は、日本語で直接教える手法や英語による指導のほか、翻訳機やタブレット端末を活用することで、円滑な学校生活を送れるよう支援した。

問　図書館費の地区図書館管理運営事業について、ラスカ平塚内の「ひらつか　駅の図書室」の年間の入館者数と貸し出し者数、及び施設賃料を伺う。

答　利用状況についてだが、年間入館者数は12万５８０１人、そのうち貸し出し利用者が５万５２３１人だった。施設の年間賃料は７５２万４千円であった。

環境厚生

○認第１号　決算の認定について〔令和7年度平塚市一般会計・特別会計決算〕

問　児童福祉施設費の公立保育所等運営事業について、ＩＣＴの活用を図ったとあるが内容を伺う。

答　登降園管理に使用しているアプリに、年間保育計画などの書式を電子化して格納することで、保護者に共有することが出来た。

問　予防費の母子保健事業について、産後パパ育休取得応援交付金額が増えたが、見解を伺う。

答　男性の育児休暇取得の促進につながったと捉えている。

○認第２号　決算の認定について〔令和７年度平塚市病院事業決算〕

問　市民病院講座の開催回数と参加者数、内容を伺う。

答　５回開催し、合計で３７６人が参加した。内容は、内視鏡手術や手術支援ロボットｈｉｎｏｔｏｒｉを使った手術の説明などを行い、参加者の広い理解を得ることができた。